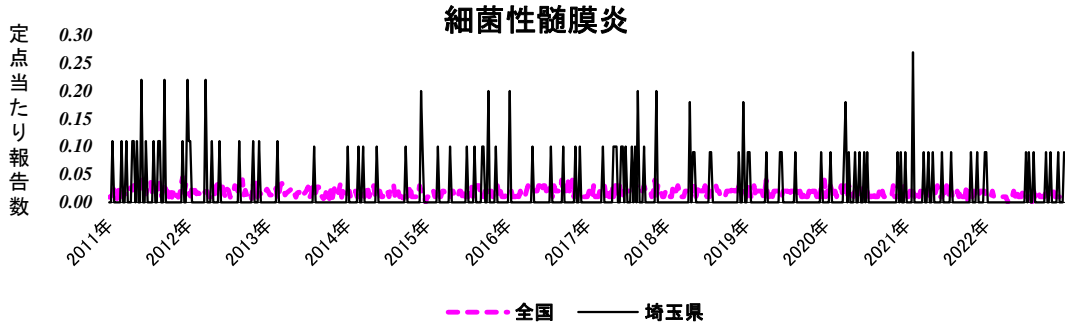


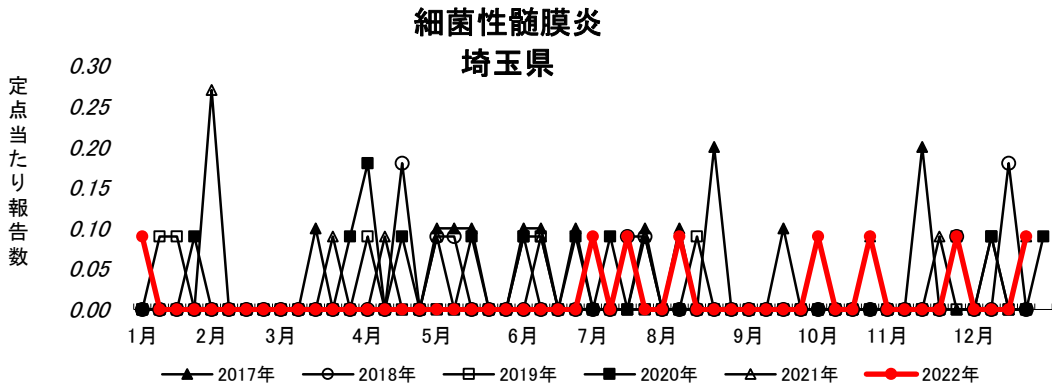
5 基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

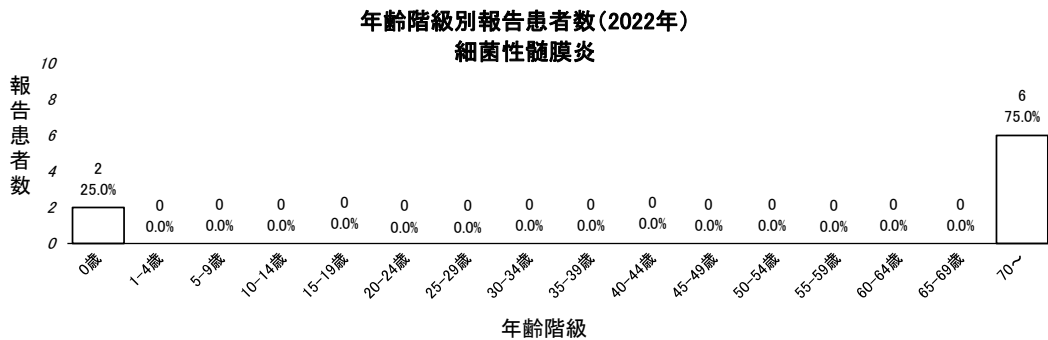
2022年第1週～52週の累積報告患者数は8人であった。定点当たり報告患者総数0.73は前年と比べ減少した。報告は散発的で、1人（定点当たり報告数0.09）の報告があった週が8週あった。年齢階級別では、70歳以上で6人（75.0%）、0歳で2人（25.0%）の報告があった。



図Ⅱ-14-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：細菌性髄膜炎）



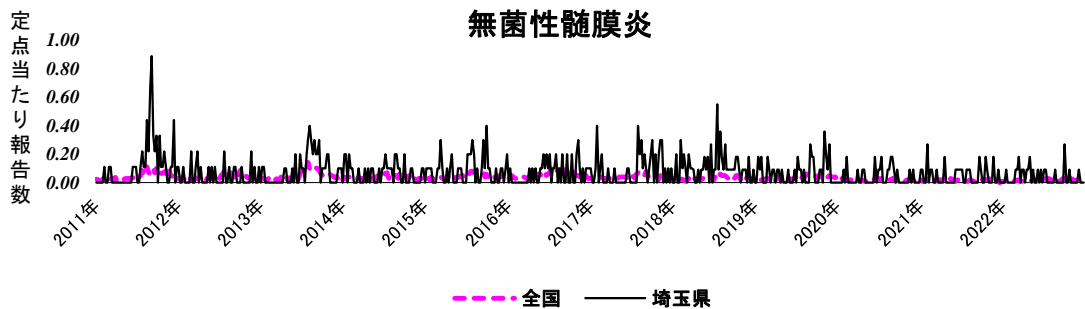
図Ⅱ-14-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：細菌性髄膜炎）



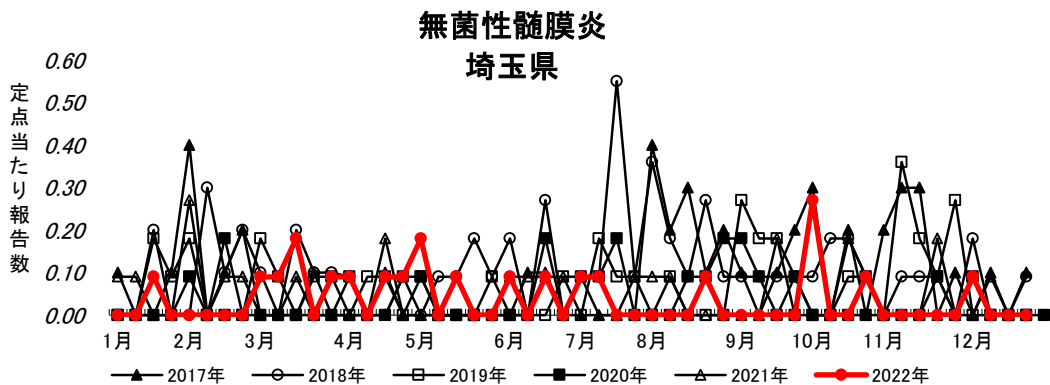
図Ⅱ-14-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：細菌性髄膜炎）

2) 無菌性髄膜炎

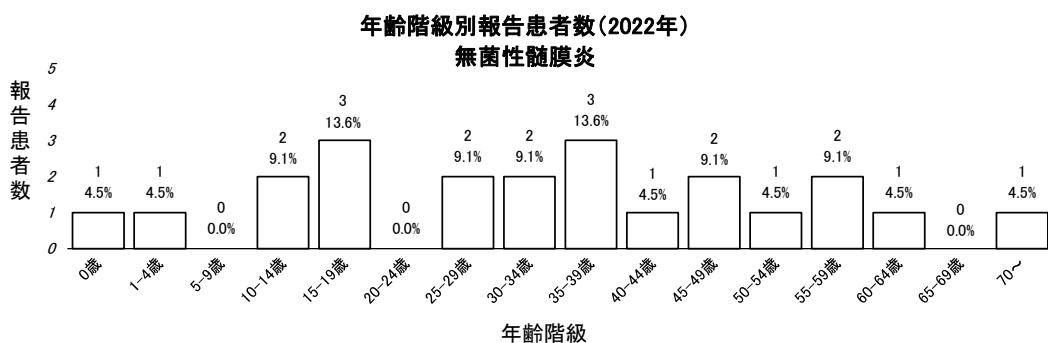
2022年第1週～52週の累積報告患者数は22人であった。定点当たり報告患者総数2.00は前年と同水準であった。報告は年間を通して断続的に観察され、52週のうち18週で1人～3人の報告があった。定点当たり報告数の最大値は、第40週(10/3～9)の0.27であった。年齢階級別では20歳未満が31.8%、20～70歳未満が63.6%、70歳以上が4.5%であった。



図Ⅱ-15-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：無菌性髄膜炎）



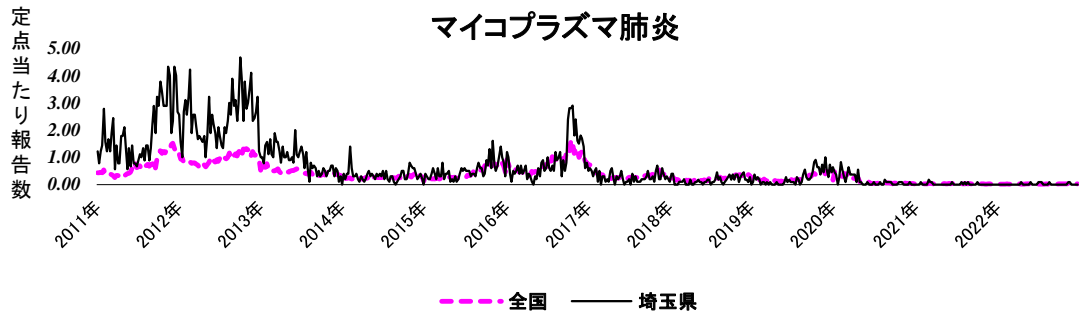
図Ⅱ-15-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：無菌性髄膜炎）



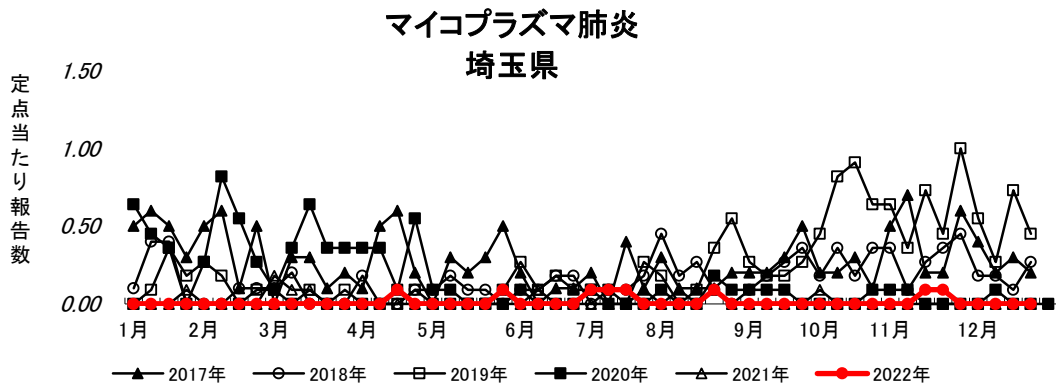
図Ⅱ-15-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：無菌性髄膜炎）

3) マイコプラズマ肺炎

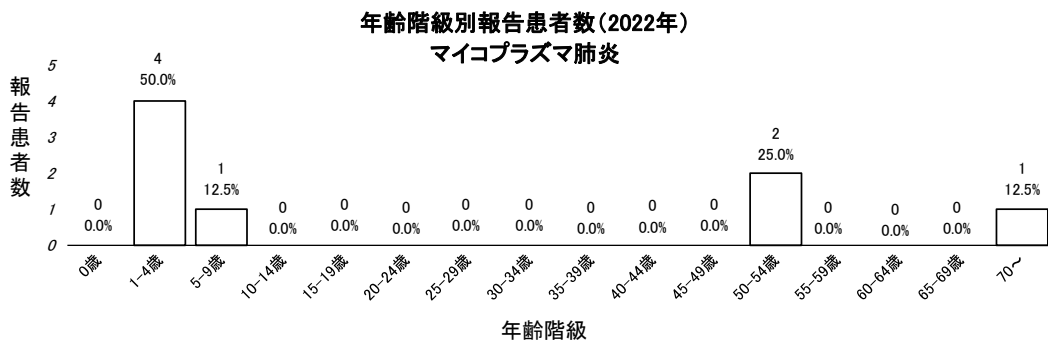
2022年の第1週～52週の累積報告患者数は8人であった。定点当たり報告患者総数0.73は前年と同水準であった。報告は散発的で、1人（定点当たり報告数0.09）の報告があった週が8週あった。年齢階級別では1-4歳が4人で最も多く、20歳未満が全体の62.5%を占めた。



図Ⅱ-16-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：マイコプラズマ肺炎）



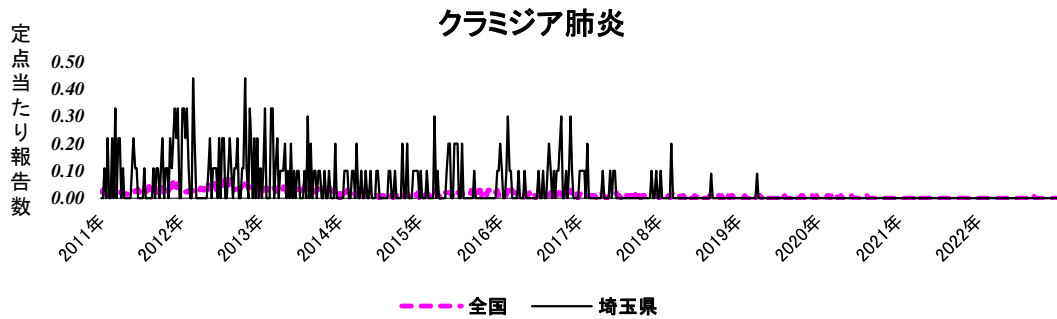
図Ⅱ-16-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：マイコプラズマ肺炎）



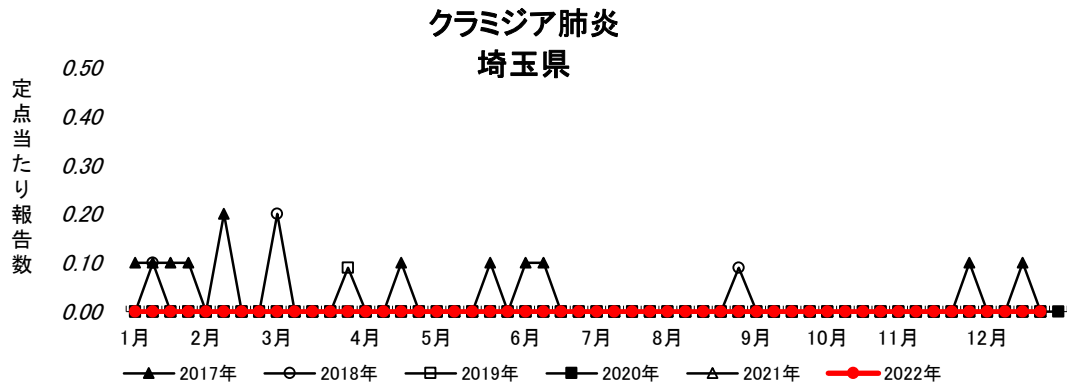
図Ⅱ-16-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：マイコプラズマ肺炎）

4) クラミジア肺炎

2022年第1週～52週の患者の報告はなかった。報告患者数は2018年が4人、2019年が1人で、2020年以降は報告がない。



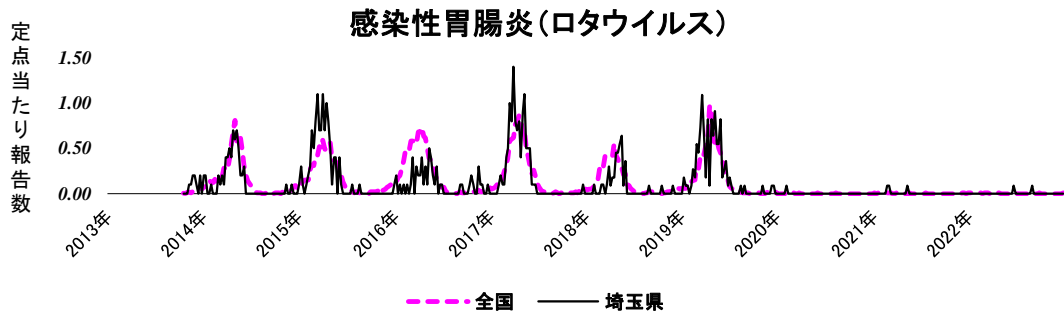
図Ⅱ-17-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：クラミジア肺炎）



図Ⅱ-17-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：クラミジア肺炎）

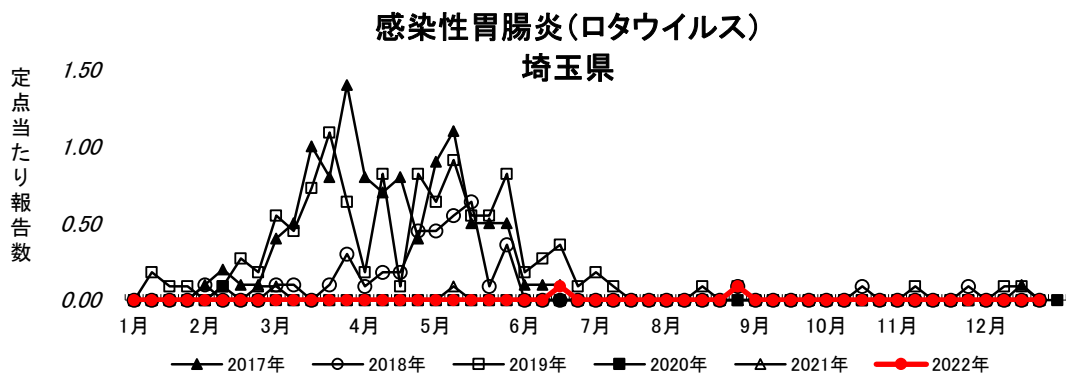
5) 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

2022年の第1週～52週の累積報告患者数は2人であった。定点当たり報告患者総数0.18は前年と同水準で、初春から初夏にかけての流行は観察されなかった。報告患者数は0歳及び1-4歳で各1人であった。

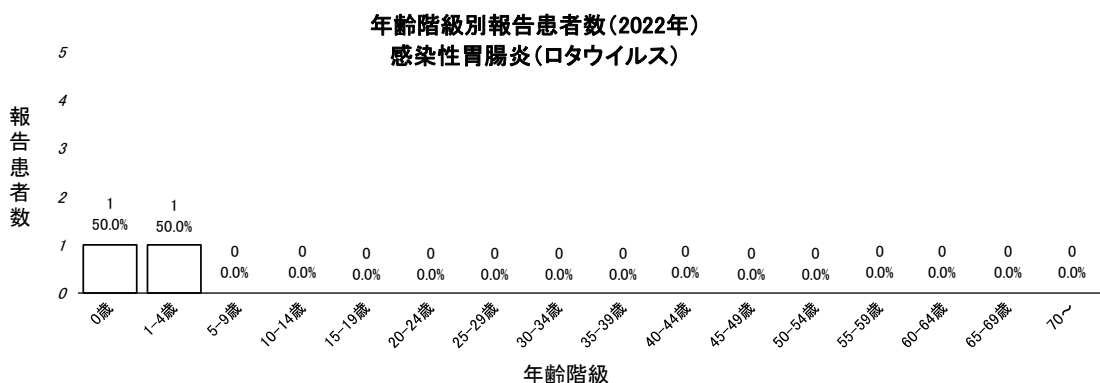


図Ⅱ-18-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：感染性胃腸炎（ロタウイルス））

2013年第42週から報告対象疾患となった。



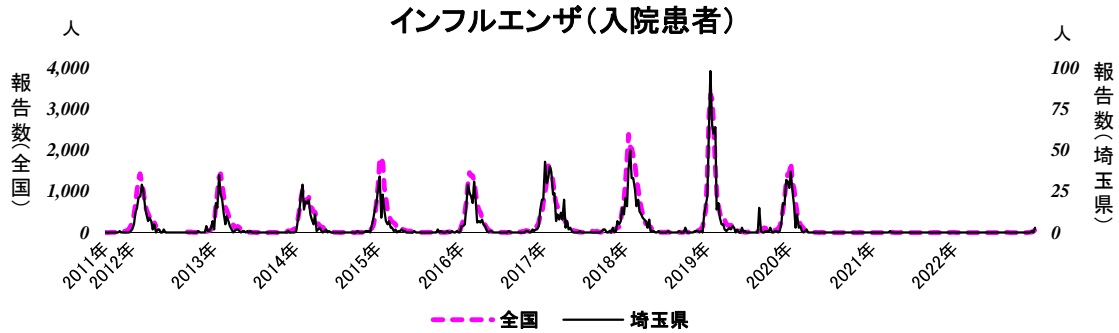
図Ⅱ-18-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：感染性胃腸炎（ロタウイルス））



図Ⅱ-18-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：感染性胃腸炎（ロタウイルス））

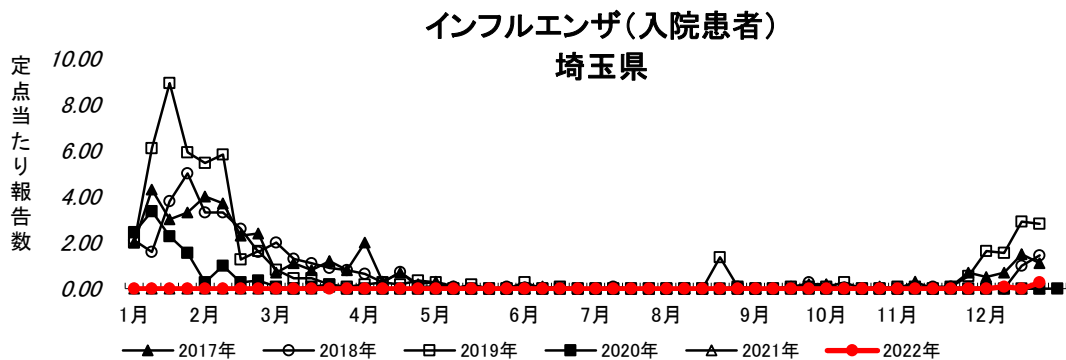
6) インフルエンザ（入院患者）

2022年第1週～52週の累積報告患者数は4人であった。定点当たり報告患者総数0.36は前年と同水準であった。2021-2022シーズンに報告はなく、2022-2023シーズンは2022年第50週（12/12-18）以降に4人の報告があった。報告患者数は70歳以上で2人、5-9歳及び55-59歳で各1人であった。

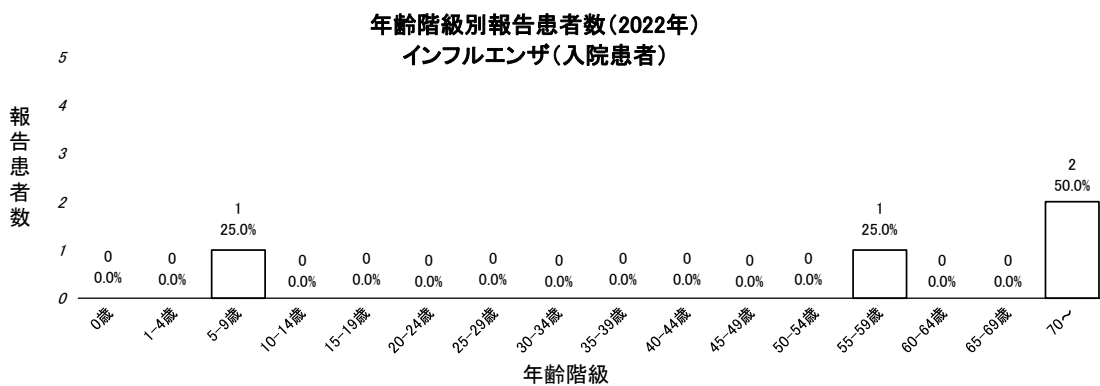


図Ⅱ-19-1 報告患者数の年推移（全国比較：インフルエンザ（入院患者））

2011年第36週から報告対象疾患となった。全国の情報で定点当たり報告数の還元情報がないため、報告患者数を用いた。2012年第17週～35週は全国の情報還元はなかった。



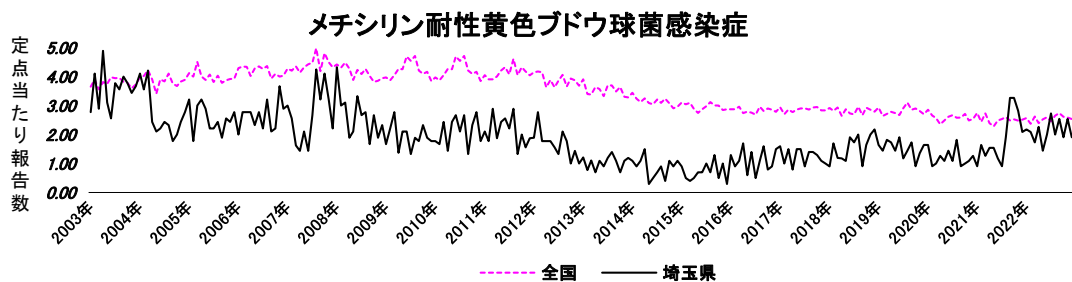
図Ⅱ-19-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：インフルエンザ（入院患者））



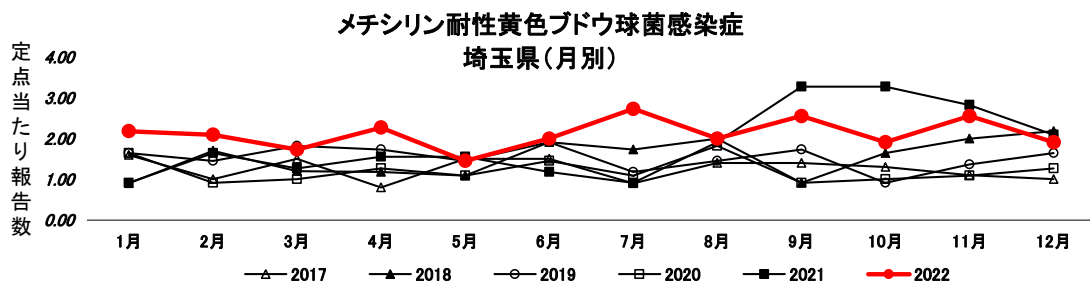
図Ⅱ-19-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：インフルエンザ（入院患者））

7) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

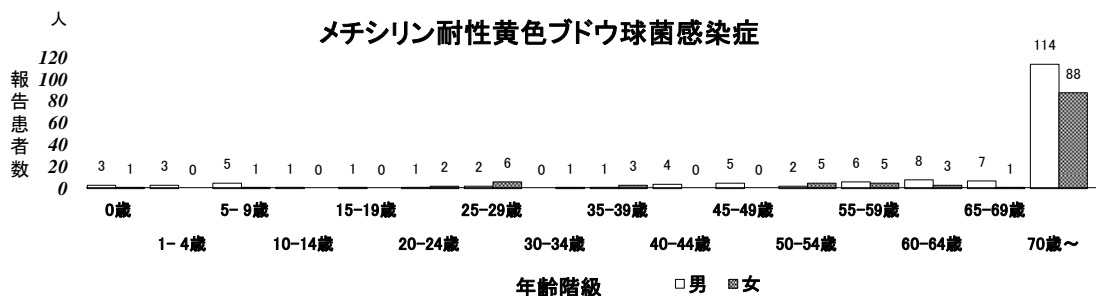
2022年1月～12月の累積報告患者数は279人であった。定点当たり報告患者総数25.36は前年に比べわずかに増加した。年間を通して患者報告はあり、定点当たり報告数は最小値1.45、最大値2.73の範囲で推移した。最大値は前年の最大値3.27を下回った。年齢階級別では、70歳以上が202人（男性：114人、女性：88人）でも多く、全体の72.4%を占めた。



図Ⅱ-20-1 定点当たり報告患者数の年推移
(全国比較：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)



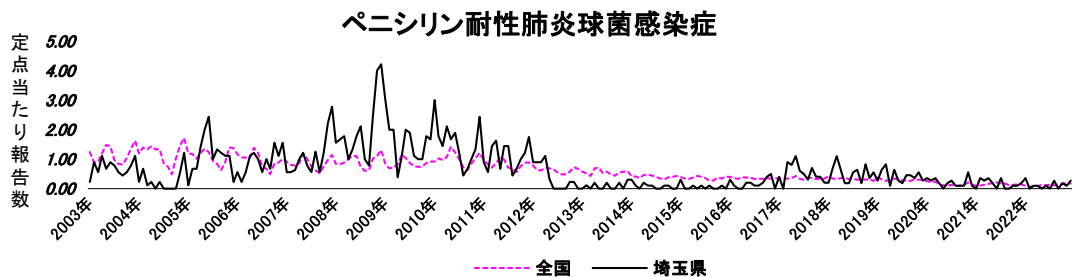
図Ⅱ-20-2 定点当たり報告患者数の推移
(埼玉県：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)



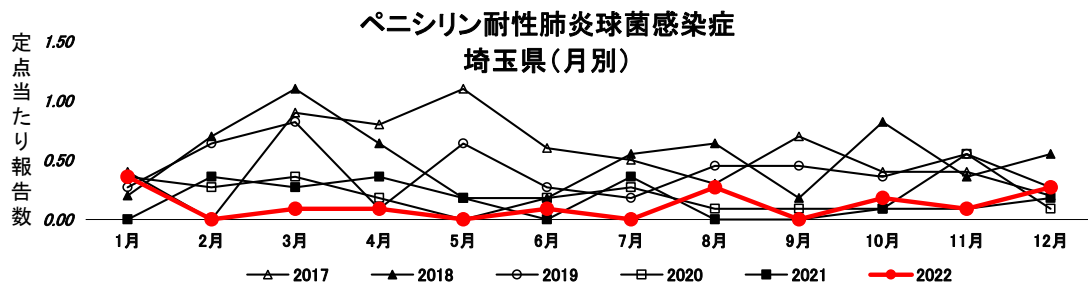
図Ⅱ-20-3 年齢階級別報告患者数
(埼玉県：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)

8) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

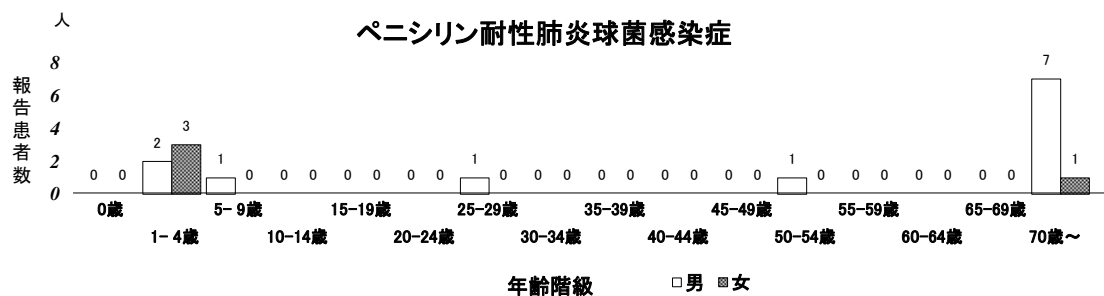
2022年1月～12月の累積報告患者数は16人であった。定点当たり報告患者総数1.45は前年と比べわずかに減少した。報告は年間を通して断続的に観察され、定点当たり報告数は最小値0.00、最大値0.36の範囲で推移した。最大値は前年の最大値0.36と同値であった。年齢階級別では、70歳以上が8人（男性：7人、女性：1人）で、全体の50.0%を占めた。



図Ⅱ-21-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症）



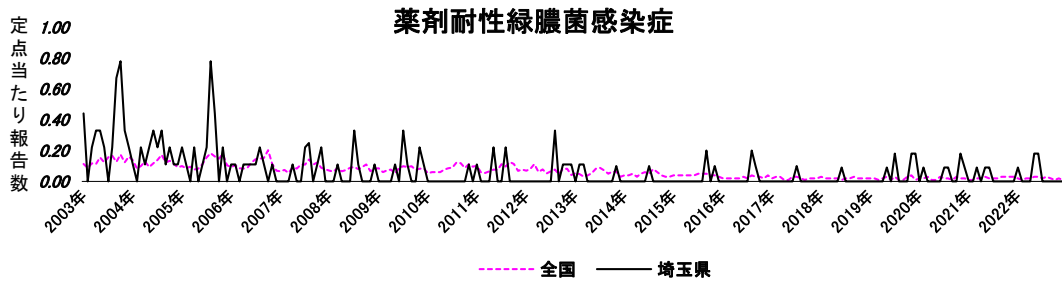
図Ⅱ-21-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症）



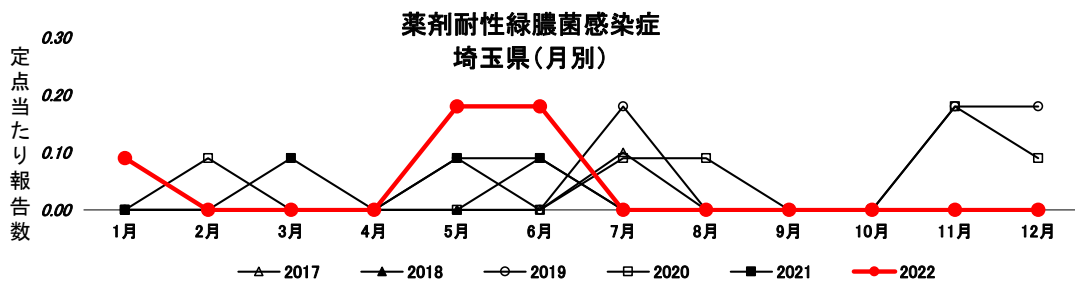
図Ⅱ-21-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症）

9) 薬剤耐性緑膿菌感染症

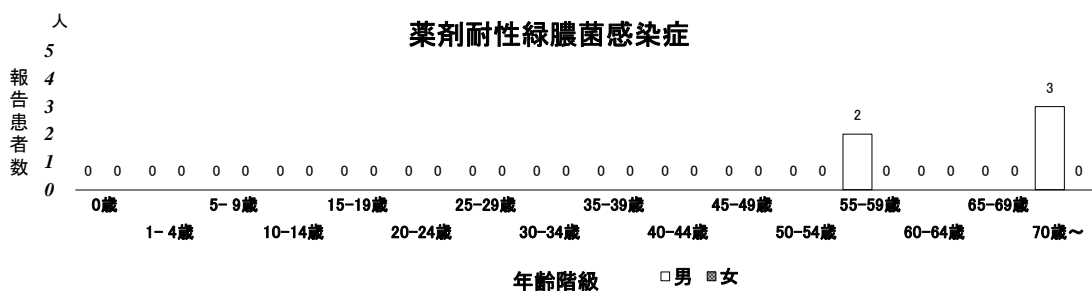
2022年1月～12月の累積報告患者数は男性5人であった。定点当たり報告患者総数0.45は前年と同水準であった。報告は5月及び6月に各2人、1月に1人で、定点当たり報告数の最大値0.18は、前年の最大値を上回った。年齢階級別では、70歳以上が3人、55-59歳が2人であった。



図Ⅱ-22-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：薬剤耐性緑膿菌感染症）



図Ⅱ-22-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：薬剤耐性緑膿菌感染症）



図Ⅱ-22-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：薬剤耐性緑膿菌感染症）